

南山大学に、人類学研究所と人類学博物館があるのをご存知でしょうか？学外の方には（学内でも!?!）、同じ施設だとよく混同されます。しかしそれもあながち間違いではありません。この 2 つはもともとルーツを同じくするからです。

南山大学が創立された 1949 年、人類学・民族学研究所とその資料陳列室が開設されました。人類学・民族学研究所は 1954 年に人類学研究所と名称を改めました。資料陳列室は 1979 年に、人類学研究所から独立し、人類学博物館となりました。奇しくも今年は、両組織の設立 70 周年に当たります。このメモリアル・イヤーに再びタグを組み、シンポジウムを企画しました。

シンポジウムの目的は 2 つあります。ひとつは、研究所の成り立ちとも所縁のある博物館の資料から、両者のルーツを改めて振り返ること。ふたつめは、博物館の資料、特に民族誌資料を、人類学の研究にいかにか活用することができるのかを考えることです。

一緒に、人類学と博物館のかかわりについて考えてみませんか。またこの機会に、人類学研究所と人類学博物館をもっと身近に感じていただき、あなたの研究に、ぜひわれわれをお役立てください。

人類学と博物館

民族誌資料をどう研究するのか？

12/21^土

【会場】南山大学 R 棟 R49 教室
事前予約不要・参加無料

13:30 「あいさつ」

後藤明（南山大学人文学部・教授／人類学研究所・第二種研究所員）

13:35 「趣旨説明」

宮脇千絵（南山大学人類学研究所・第一種研究所員／准教授）

13:45 「基調講演：人類学と博物館—これまでとこれから」

吉田憲司（国立民族学博物館・館長）

14:30 休憩

14:40 「物質文化研究の視点から」
後藤明

15:00 「民具研究の視点から」15:45 人類学博物館見学

久保禎子（一宮市尾西歴史民俗資料館・学芸員）
16:30 総合討論

18:00 終了（総合司会：宮脇千絵）

15:20 「考古学の視点から」
黒沢浩（南山大学人文学部・教授）